

■コーディネーター／弊社北九州支社代表の金成子。  
 ■司会／読者実行委員の岩田由美さん。  
 ■パネルディスカッション／ゲストの熱いメッセージに拍手喝采。  
 ■実行委員長／熱い想いとともに、実行委員をまとめ、引っ張ってくれた読者実行委員長の米来千夏さん。

## パネルディスカッション

どんな時も明るく、「ポジティブdoing」で走り続けてきた彼女たち。  
 “自分らしく”それぞれのポリシーを持ったひとりひとりの人生にセマッタ。

**パネリスト**  
 うら かみ ちづる  
**浦上 千鶴さん**  
 海のみえる迎賓館 支配人

1977年北九州生まれ。高校卒業後、不動産会社での営業を経て、(株)千草に就職。フライタル業10年目にして、「海のみえる迎賓館」支配人に。31歳、女性の支配人というのは異例。ホリデーリーダーは本職であり、現在は「相手の才能を最大限に引き出すコーチング」に魅せられ、コーチとしても活躍中。

**パネリスト**  
 き ど せい こ  
**木戸 聖子さん**  
 北九州シネマサロン実行委員

1962年八幡西区生まれ。1985年NHK北九州放送局に入局後、グラフィックデザイナーに。現在は8年前から始めた「北九州シネマサロン」の実行委員長・総監査として尽力している。「私は前しか見ていないから」と大きな声で笑う木戸さんは、まさに「ポジティブdoing」。

**パネリスト**  
 み わ じゅん こ  
**三輪 純子さん**  
 スピーチセラピスト

1940年生まれ。東京で司会者として活躍後、北九州へ戻る。その後アウンサー等様々な仕事を経験。40歳からは「培ったものを伝えていく」ために話し方講師を始めます。「やってやろうじゃないの」を原動力に、2度の病氣からも復活し講演や朗読、講師等の仕事を精力的にこなす。

## 自分が源。受け取り方、見方、考え方を少し変えてみる

19歳の頃からフライタルの仕事に就いたかったのですが、年齢が達していきないうことで叶わず、1年間不動産業の営業をしました。営業経験があれば若くても雇ってもらえるのではなかと考えたのです。運良く21歳の時、フライタルランナーとして就職でき、4年後、新サロをオープンする立ち上げのメンバーに加えて頂いたので。この仕事が好きで、デザイナーの仕事には何の迷いもなかったのですが、人を育てる立場になった時、大きな壁にぶつかりました。オープン当時13人いたスタッフが3年後に残っていたのはたった1人。「私には人を育てる能力が無い。これ以上は無理だ」と、このとき初めて退職を決心しました。辞め

## 基準は、ワクワクできるかどうか。周りに語れば夢は叶う

フリーのグラフィックデザイナーとして仕事をしながら、北九州シネマサロンの運営もしております。11年前、松永文庫という日本映画の私設図書館が門司港にオープンしたと新聞で知り、急に訪れまされた。文化不毛の地と言われている北九州にこんな素晴らしい図書館が出来たことが嬉しく、その出会いが今の私に繋がっているわけです。グラフィックデザイナーの仕事にしても、映画に関する仕事にしても、何か新しいオファーが来た時の判断基準は、それをやっている自分がワクワクして楽しめるかどうか。そこを基準にして、邁進しています。

## 「やってやろうじゃないの」逆境に立った時こそチャレンジ精神で

TVがない時代から放送の仕事に携わって来ました。上京した時に、今では大御所と呼ばれる嘶家さんと仕事を一緒にでき、人を楽しませるための命がけのサービス精神を学んだんです。それが私の仕事をやる上でベースになっています。27歳のときに娘二人を抱えて一人になりました。夫はおもちゃに残さずそのままいなくなりました。1年間探し続けましたが、新宿伊勢丹の前を歩くとほとほと歩いていたら、シロウインドのガラス越しに映った自分の顔を見て、もう探すのはやめようと思いましたが、ものすごく汚くなっている自分に気付いたからです。それからは生きていくために一生懸命

ににしても、せめて1人育てよう、上司に励まされて心を決めてから、コーチングの勉強を始めました。これが大きな出会いでした。おかげで、人を育てるという意味が少しずつわかってきて、こんなに楽しい仕事があったのかと思うようになりました。そして、31歳にして支配人に就任することができたのです。「自分が源。いつもどんな時も」というコーチングの師の言葉を大切にしています。何かあると人のせいや環境のせいにしてしまいがちですが、受け取り方、見方、考え方を少し変えてみるだけで、状況随分変わるんです。健康で、仕事のある幸せに、まず気づくことも大切だと思います。

昨年、「白象くんがやってきました」というライオンアターを1000人のスタッフを率いて夢の嘉穂劇場で開催しました。きっかけは子どもと幼稚園で知り合ったお母さんたちとのご縁。読み聞かせや朗読や人形劇など、それぞれ活動していたので、いつか一緒にやろうねと話していたら3年後に実現したんです。夢は叶うんです。周りに語ることを、さを実感しました。

でした。テレビのレギュラーを頂き、ラジオやフアンションショーのナレーターの仕事をして、喫茶店のママさんもしました。逆境に立った時こそ「やってやろうじゃないの」と、目の前に来たものに何でもチャレンジしてきまなれたらいいと思います。だからこそ、仕事を続けてこれたのだと思います。更年期も「来たわね」という気持ちでどっぷりかかりました。しっかりと観察して後でネタにしようと思っていました。楽しく取り組めたんです。「やってやろうじゃないか」と思えば、大丈夫。皆さんもやれる！是非頑張ってください。

## 交流パーティ



交流パーティではゲストと直接話しができるので、距離もぐっと近づく!

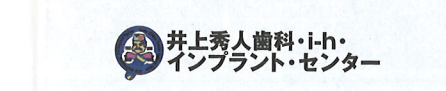


最後にサプライズで三輪さんの朗読CDがあった人も!



いたるところで記念撮影。豪華抽選会も実地! 何が当たるかはお楽しみ…。

【協賛企業】第7回トークライブ協賛企業の皆様、ありがとうございました。(順不同)



## メインゲスト基調講演

第1部

鮮やかな紫色のスーツに包まれて凛とした姿で登場した橋田さん。順風満帆で走り続けたような煌々笑顔の裏にはさまざまな困難も…。終始笑顔で、テンポよく話す彼女に、会場全体が引き込まれていった。



**メインゲスト**  
 きつ だ か お り  
**橋田 佳音利さん**  
 株式会社Frajouterie(フラジュテリー)代表取締役

1958年東京都生まれ。81年東邦音楽大学声楽家卒業。住友電工入社。82年結婚、退社。2男ももうける。その後離婚をし、一般事務、営業、CADオペレーターなどを経験。1年間、父が経営する会社で社長を務めることが決まり退任。ある企業の共同経営者として小樽で事務にあたる。00年に帰京し、03年3月、フラジュテリー設立。「35歳が壁」といわれる再就職市場で、あえて35歳以上の女性に光を当て、正社員としての再就職を支援している。同社研修受講者は、約9割が正社員としての再就職成功の実績を持つ。日経ウーマン・オブ・ザ・イヤー2008年キャリアクリエイト部門受賞。趣味はヨット(全日本選手権レディース優勝・ワールドウーマンズチャンピオンシップ参加)。

## 自分のメリットを活かし「良いところ探し」をする ポジティブな思いの継続が煌々く自分を創る

35歳以上の女性を対象に再就職支援をする仕事をしていますが、この仕事を始めるきっかけとなったのは、私が受けた差別にあります。まずは男女差別。29歳で別居し30歳で離婚したのですが、その際に家をなかなか貸してもらえませんでした。次は母子家庭差別。長男の担任の先生に「母子家庭の子は非行に走る」と言われ、何度も泣くほど精神的にきつい日々を送りました。そして最後に年齢差別。42歳で再就職活動をしたとき、数十社に応募書類を送ったのに、年齢制限を超えているからと、どの会社も会う中にも「人間やめちやおうかな」と思うほどボロボロになりました。そんな経験があつて、35歳以上(ミドルエイジ)の働く女性を応援したいという気持ちで固まったんですね。そして44歳のときにその世代に特化した人材コンサルティング会社を設立しました。ただし、最終的には女性全体を応援したいと思っております。仕事は年齢じゃありません。男女差別、求人で、我が社の研修を受けた43歳の女性が雇用された例もあります。上司に彼女が半年後主任になり、38歳の男性から「仕事ができるだけじゃなく、その他こともとてもよく知っている」と本当に助かっている」と高く評価されています。ミドルエイジはたくさんメリットを持っているんです。人それぞれではありますが、①積極性がある

②経験とスキルがある③木目細やかな対応ができる、の3つあります。しかし、残念なことにはこのメリットはデメリットにもなります。①の積極性を裏返せば、図々しい。恥じらいがない②の経験の場合は、自分の経験に固執してこだわりすぎたり、前の会社のルールを押し付けようとしたら、自分の木目細かな対応に関しては、本当はできるのに、自分の役割でなければならぬ、お姑さん的になってしまふ。柔軟性がないですね。デメリットが表に出てしまう人は、「働かされている」「働いてやってくる」という考え方の人が多い気がします。仕事は最終的には自分のためになるのだと考え方を切り替えて、メリットを活かせるミドルエイジになってほしいと思います。煌々女性は何歳でも就職できるんです。実際、私どもの研修を受けた女性の9割は正社員として雇用されています。具体的にどうすれば煌々することができるとお伝えします。自分をしっかりと見つけて、自分の良いところを10個探してください。期限を決めて、朝昼晩、常に考え続けることがポイントです。それをノートに書き、最終的に自分の10カ条にキープする努力をすることが必要になります。そこにご自分の魅力、周りから誉められるようになり、自信が持てるようになります。すべてが考え方の一つです。がんばろうと思つて、できないときも、自分の「良いところ」を見つけてください。ポジティブに思い続けることです。思いの継続が煌々く自分を創るのです。

## イベントレポート

第7回  
 トークライブ  
 女たちの  
 サクセスストーリー  
 2008年11月25日(火)開催

# ポジティブdoing

一歩前へ出る勇氣

去年の11月25日、第7回目のアヴァンティトークライブ。150名近くの人が会場となるリーガロイヤルホテル小倉に集まった。テーマは「ポジティブdoing」一歩前へ出る勇氣。まさにテーマにふさわしい今の時代に笑顔で頑張ると生きる4人のゲストたちを迎え、会場は時に笑い声あふれ、時に真剣なまなざしで熱い思いでいっぱいになった。

会場／リーガロイヤルホテル小倉  
 主催／トークライブ実行委員会  
 株式会社アヴァンティ北九州支社  
 協力／リーガロイヤルホテル小倉